

第11回 ショートレター受賞作品一覧

《最優秀賞》

タイトル 「通りすがりのおじ様へ」

人混みの中を怪我のため杖をついて歩いていた時、車椅子のあなたが荷物を運んでくれた。ご自分も不自由な体なのに助けてくれた思いやりが温かった。人の目線に立って痛み気付くことの大切さを教えて頂きました。



《優秀賞》

タイトル 「息子へ」



いつか君は思うだろう。「どうして僕だけ?」「なんで僕が?」お母さんもまだ答えが分からないよ。なんで君が…。でも、これだけは分かったよ。君ならきっと、乗り越えられる。

《優秀賞》

タイトル 「隣の席の君へ」

声を出す事の出来ない君は、僕が答えを代弁する時にいつも『ありがとう』とノートに可愛らしい丸文字と、笑顔をくれる。声に出さずとも、その感謝の気持ちが伝わってくるのは嬉しかった。

《佳 作》

タイトル 「お母さんへ」

「バイトで立派やん？生きてるならそれでええやん」母さんは不思議そうに微笑む。周囲の人には「就職は？」「正社員に就けないの？」と指摘されるけど、生きているだけでいい、と母さんは教えてくれる。

《佳 作》

タイトル 「店長さんへ」

バイト先の喫茶店で銀皿にのせた空きグラス六個 不注意で床に落下 大音響 周囲の全視線 しゃがみこんだ私はパニック状態。店長さんがそばに来て一言 けがはなかった？あの日以来店長さんの優しさは心に永久保存されている。



《佳 作》

タイトル 「母さんへ」

いじめられていた中学校時代。耐え切れず我を忘れて暴れた私を、泣きながら迎えに来てくれたね。一緒に泣いてくれたね。一人じゃないんだって、全身で伝えてくれたね。今までずっと言えなかったけど、ありがとう。

《佳 作》

タイトル 「祖母へ」

三人息子を交通事故で亡くして全盲になってよくないことばかりの人生だったのに、おばあちゃんはいつも小さな幸せをみつけて「よかった、よかった」と言っていたね。おばあちゃんが私のおばあちゃんであってよかったよ。

《佳 作》

タイトル 「今は婚約者になった目の見えない彼へ」



目の見えない彼に、見つめ合いたいよと言った。あなたは、じゃあ代わりにずっと手を繋いでいて下さい、と私に言いました。私たちは喧嘩する時も手をつなぎます。

《入 賞》

タイトル 「今、生きている方へ」

人は目が二つで指が五本、お尻が一つで足が二本。多くの人はそうだけど、それが“正しい”わけじゃない。目が一つでも、足がなくても、“心”をもっているのは皆一緒。大事なのは心が“正しくあろう”とする気持ち。

《入 賞》

タイトル 「2歳の息子へ」



小さな赤ちゃんの側で、おもちゃの剣を振り回す君に、私は怖い目をして叱った。涙目の君は「赤ちゃんが泣かないように、そうやがおばけをやっつけてたのに。」そう呟いた。君の心の声が、優しさがうれしかった。

《入 賞》

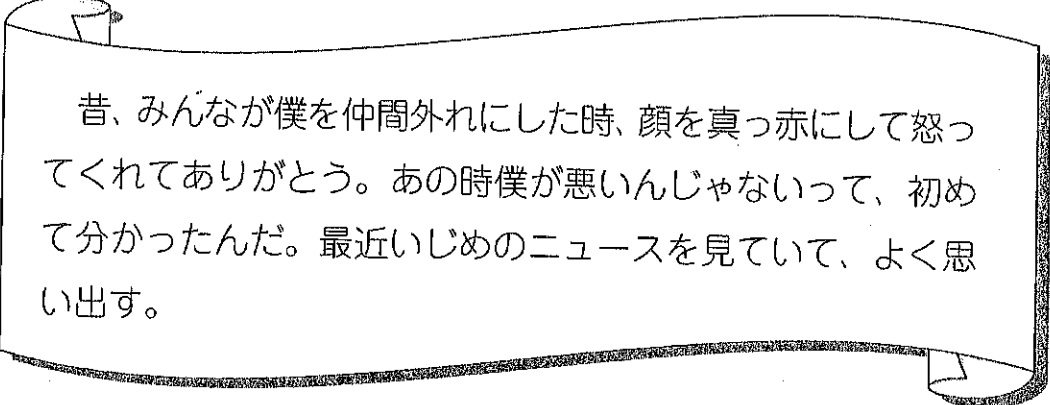
タイトル 「2歳の息子へ」



公園でご飯を食べている鳩の中に、一羽、一本足の鳩さんがいたね。ママが「かわいそう」って言う前に、「あのとはとさん、しゅごいねー」って言うのを聞いて気づかされたよ。違っても、違うからこそ、素敵だね！

《入賞》

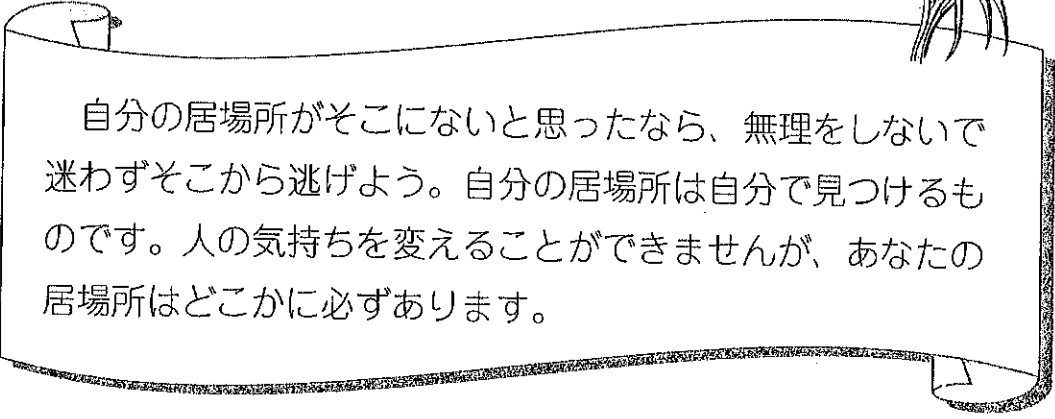
タイトル 「先生へ」



昔、みんなが僕を仲間外れにした時、顔を真っ赤にして怒ってくれてありがとう。あの時僕が悪いんじゃないって、初めて分かったんだ。最近いじめのニュースを見ていて、よく思い出す。

《入賞》

タイトル 「今、いじめられている君に」



自分の居場所がそこにはないと思ったなら、無理をしないで迷わずそこから逃げよう。自分の居場所は自分で見つけるものです。人の気持ちを変えることができませんが、あなたの居場所はどこかに必ずあります。

《入 賞》

タイトル 「娘へ」

人が嫌になったら、「チューリップ」の歌を思い出してごらん。「赤、白、黄色、どの花見てもきれいだな」。人それぞれのいい面を見ようとする事ができると思うよ。

《入 賞》

タイトル 「友へ」

リストラされ「私なんて社会のお荷物だ」とクサっていた私に、障がい者の息子を一生懸命育てている友人からの一言。「世の中には役に立たない人なんていないんだよ」。彼女の言葉だからこそ心に響きました。



《入賞》

タイトル 「小学校の時の担任の先生」



娘がピンチな時に力を貸してくれた先生、「ぼくも、時には子どもたちに助けられ癒されることもあるんです」って言って下さった一言がすごく嬉しくいつも思い出します。私も幼少の頃にこのような先生に出会いたかった。

《入賞》

タイトル 「小さな祈り」

四歳の孫を連れてセミ採りに出かけた。その途中にお地蔵さんらしい石仏が「おじいちゃんおねえちゃんの病気が早く良くなるようにお祈りするけんね」と言って、孫は小さな手を合わせた。

《入 賞》

タイトル 「母へ」



手が震え、車いす生活をするじいちゃんに1から10まで手助けしていた私へ、母さんは言った。「おじいちゃんが自分でできることは、尊重しないと」。

それ以来、相手の目線に立った気遣いを意識できるようになったよ。

《入 選》

タイトル 「恩師へ」

生まれつき病弱だった私は運動会の徒競走でいつもビリだった。けれども、担任のK先生は「1位も6位も先生の中では同じよ」と言った。全力で走ったことに意味があると、劣等感を和らげてくれた恩師に感謝している。

《人 選》

タイトル 「友へ」



「注意欠陥・多動性障害」って、最初どういう障害かわからなかった。エジソンも坂本竜馬もそうなんだよ。君は恥ずかしそうに言ったね。打ち明けてくれてありがとう。今では君は僕の無二の親友だよ。

《人 選》

タイトル 「おとうさんへ」

片親でも強く生きて仕事がんばる姿を見せてくれてありがとう。御墓の中で子供達の就職うまくいくよう見守ってください。

《人 選》

タイトル 「世間へ」



どうか自分と違う人を受け入れる力を育ててほしい。違う人をうけいれる努力をしてほしい。いろいろな人と積極的に繋がりをもってほしい。そういったひとりひとりの努力が世の中を良くしていくのだと思う。

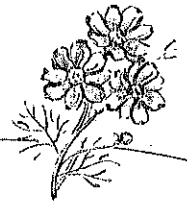
《入 選》

タイトル 「お母さんへ」

若い時は「仕事じゃない！」なんて言ってごめんね。妻になり母になり、あなたの辛さや喜び大変さがやっとわかりました。専業主婦って偉大な仕事ですね。

《入 選》

タイトル 「夫の母へ」



「お母さん、墓参り用の花くくっておいてね」と出かけにお願いをする。嬉しそうな顔で「よっしゃ！」と弾んだ声が返ってくる。近年、軽度な認知症を患っている母、少しでも長く一緒に暮らそうね、おかあさん。

《入 選》

タイトル 「途中で失明した母へ」

50歳過ぎから視力が落ち、失明した母。目が見える内は、縫製のパートをしながら大学まで行かせてくれた。成人式で振袖を着たときは、見えにくくなった目を必死にこらして、泣きながら祝ってくれた。自慢の母です。

《入 選》

タイトル 「娘 & 息子」



貴方達が私をお母さんにしてくれました。若い頃あんなに好き放題やっていた自分がとうとう“お母さん”人生で一番がんばっています（笑）！でも、あなたたちの為ならがんばれます。ありがとう。

《入 選》

タイトル 「お母さんへ」



中国の彼との結婚が決まって、親戚から「中国人なんて」と言われた時、「娘が幸せになるなら関係ない。それに彼は娘にはもったいないくらいの人です」と言ってくれたお母さん。10年経った今でも私は幸せです。

《入 選》

タイトル 「おじいちゃんへ」

私のおじいちゃんは町の消防団ですね。おじいちゃんは火事が起こると消防車よりも早くその場所にかけるね！そんなおじいちゃんはすごくカッコイイよ！これからも町の人たちのためにがんばってね！

《入 選》

タイトル 「親父の味へ」



お母さんがいるときから料理はお父さんが作っていたよね。今でも私達が帰ると食べきれないくらいの料理が並ぶ。また食べに帰るよ。私の心の故郷と懐かしい味は親父の味だから。

《入 選》

タイトル 「いじめをやめられない人たちへ」



人を愛することが苦手ですか？愛を知らずに生きているのですか？人と仲良くすることで、心を満たすことは難しいですか？いじめられた人間も人を愛せなくなってしまうのです。そんな世界に生きるのは悲しいですよ？

《入 選》

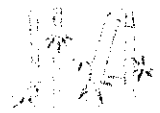
タイトル 「やさしい夫へ」



育児と仕事に時間を追われ夫婦の会話がめっきり減ってしまいましたね。たまに口を開けば文句や愚痴ばかりの私。そんな私の話にただ黙って耳を傾けてくれている。言葉で言えないけど本当は心から感謝しているのです。

《入 選》

タイトル 「お父さんへ」



今はまだごめんなさい。幼い頃のように面と向かって話せるように、笑い合えるようになるまでもう少し時間をください。素直になれなくてごめんなさい。でも、どうか伝わって。私は、お父さんのことが大好きです。


《入 選》

タイトル 「子供へ」

「哲」お母さんは哲が病気とは気づけずに随分辛い思いをさせました。病名を告げられショックで食事が出来なかった昨年。やっと元気を取り戻した今は、「のんびりとマイペース」でとは思ってはいるのですが……。

《入 選》

タイトル 「いじめられている人へ」



今がどれだけつらくても、必ず笑顔になれる日はやってくる。苦しんだ人ほど幸せになれる。苦しんだ人ほど優しくなれる。あなたは決して1人じゃないよ。だから勇気を出して！生きていてよかったと思える日のために。

《入 選》

タイトル 「リフティングを頑張るサッカー少年へ」



2215回という最高記録を出した子にも、14回から21回に記録更新した子にも、コーチは同じように「やったな！よく頑張ったな。」と言うよ。回数ではなく、君達それぞれの「頑張り」を褒めてあげたいから。

《入 選》

タイトル 「コウ（里子）へ」

天涯孤独のコウの、生んでくれたお母さんと血縁の家族への思慕は私の想像を遥かに超えるほど深い。でも、家族として10年一緒に暮らしているコウを、私は一生かけて守ります。コウ、生まれてきてくれてありがとう。

《入 選》

タイトル 「母へ」



股関節の手術をしたあなたは、生涯走れない体になってしまったね。でも「足を悪くした引き換えにおまえが生まれたから。後悔なんてあるはずない」という言葉が嬉しくて。これからも元気でね。

《入 選》

タイトル 「職場の同僚へ」

職場で「オカマ」とからかわれた時、「アンタはその中性的な所が素敵やねんで」と励ましてくれてありがとう。あなたに言われたように、私は絶対に自分の個性を卑下しないよ。

《入 選》

タイトル 「夫へ」



本当に本当に好きになったから、隠してきた障害を、隠すわけにいかなくなった。打ち明けた時「別に大したことじゃない」と言うのを聞いて、あなたが私を本当に大切に思ってくれているのだと知りました。

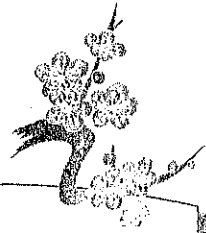
《入 選》

タイトル 「祐太くんへ」

「暴力ばかりふるっていると友だちがいなくなっちゃうぞ。すぐ暴力をふるうのは心が弱い証こだぞ。」そう言われてはっとした。祐太、気づかせてくれてありがとう。僕、悪いジャイアンになるとこだったよ。

《人 選》

タイトル 「社会に向けて」



いじめた人を一切理解していないのに頭ごなしに悪く言う。そういう固定観念が差別を生むことに気づいてないなら人は変わらない。誰に対しても理解を示すことが人のためのやさしい社会につながる。

《人 選》

タイトル 「昔の同級生へ」

すぐ席を立ったり、大声を出して授業を妨害していた。僕は君が嫌いだ。最近君によく似た子どもをニュースで見た。そうか。君はじっとしているのが苦手だったんだ。当時は無視してごめん。

